

## 5 災害に強いまちづくり計画



### 施策 8-1-④

### 防災教育の推進（住民・子どもたちの意識づくり）

共通

#### 【取組の概要】

大規模災害において、地方公共団体の「公助」には限界があり、「自助」「共助」が必要で、住民や子供たちが、その考え方を身に着けるために防災教育が必要です。

東日本大震災では、防災教育によって、多くの児童・生徒の命が助けられたといえます。特に、岩手県釜石市では、「想定にとらわれない」、「状況下において最善をつくす」、「率先避難者になる」との「避難3原則」の徹底が行われ、多くの児童・生徒が適切な避難行動を行いました。

児童・生徒に対しては、通学途中に災害が発生することも想定し、通学路沿いの避難場所の確認等を行っていくことが必要です。

#### 【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

##### ○防災教育

- ・地方公共団体には、災害の経験や教訓を後世に語り継ぎ、社会教育や学校教育等の様々な場を通じた防災教育の取組みが求められます。
- ・防災教育では、学校から家庭へ、家庭から地域へといったように、様々な機会を通して防災の文化を高めていくことが重要です。授業参観日を利用した親子による防災教育の事例もあります。
- ・大学などの機関との連携により、防災教育に関するカリキュラムや教材などの作成を行うことは、一貫した防災教育の推進に効果的です。
- ・四国地方には観光地も多く、観光客を災害から守るため、観光ガイドを含む観光関係者が防災・減災の意識を高める教育等の工夫が必要です。

##### ○防災・減災の啓発

- ・津波に対しては地震の強さと揺れの長さで判断し、すぐに逃げる習慣づけが必要です。
- ・住民の防災意識の高揚に向けた情報発信では、広報誌やパンフレット等の配布、ホームページ、ラジオ・テレビ・新聞等マスメディアなど、多様な手段を活用することが重要です。より細やかに且つ効

#### 坂出市役所Twitterについて

[通常ページへ戻る](#) 掲載日:2013年3月15日更新

Twitterやブログ等のインターネット上のさまざまな民間ソーシャルメディアサービス(以下「ソーシャルメディア」という。)は、今や国民生活において重要な情報伝達収集手段となりつつあります。坂出市においても広報誌やホームページ等での情報掲載と共に、これらソーシャルメディアを有効活用することで市民の皆さまへよりこまやかに且つ効果的に情報をお伝えすることができる重要な手段となると考えTwitterアカウントを設けることにしました。

 **坂出市役所のTwitter**  
[坂出市役所のつぶやき\(twitter\)](#)  
携帯電話等からは  
[http://twtr.jp/user/sakaide\\_city/status?uid=0n](http://twtr.jp/user/sakaide_city/status?uid=0n)  
または、下記QRコードから



※通信には、パケット通信料が発生します。

※ Twitter は、米国Twitter社が提供するインターネットサービスであり、同社の登録商標です。

## 5 災害に強いまちづくり計画



果的な情報発信手段として、Twitter アカウントを設け、防災情報の発信・収集に活用を図る事例もあります。ソーシャルメディアサービスは、災害時において貴重な情報の発信・収集の手段となることから、効果的な活用を行うことが求められます。

### ◆参考資料

- ・岩手県釜石市津波防災教育のための手引き

[http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi\\_tool/](http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi_tool/)

### 【事例】

#### ○愛南町の取組み

##### ・防災教育の推進に関する協定を締結

- ・愛南町、愛南町教育委員会、国立大学法人愛媛大学防災情報研究センター及び国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所の4機関において、「愛南町における防災教育の推進に関する協定」を締結し、地域に密着した防災教育の推進を図っています。
- ・義務教育課程における防災教育と社会教育における防災教育の両輪によって、すべての世代が学習する防災地域社会システム、持続可能な「防災文化」の創造をめざしています。



大洲河川国道事務所による  
出前講座

## 5 災害に強いまちづくり計画



### ○坂出市の取組み

#### ・ラジオ放送による「防災ひとくちメモ」の提供

- ・坂出市では、隔週の水曜日の昼 12 時 5 分頃から、FM-SUN (76.1MHz) で「防災ひとくちメモ」を放送し、防災知識の普及に努めています。また、市のホームページ内にて、放送内容の紹介等を行っています。



<http://www.city.sakaide.lg.jp/site/bousaicolumn/>

#### ・海拔表示板の設置

- ・普段から各地点の海拔を意識することにより、津波への警戒や防災意識を高めるとともに、実際に避難する際の参考にしてもらうため、各指定避難場所に海拔表示を実施しています。



### ○高知県の取組み

#### ・学校防災アドバイザー事業の実施

- ・学校の安全対策の強化を図るため、高知大学の防災部門の先生方をアドバイザーとして、学校に派遣し、専門的な見地からの防災学習や避難場所・避難経路の見直し等にアドバイスをしていただく「学校防災アドバイザー派遣事業」を実施しています。



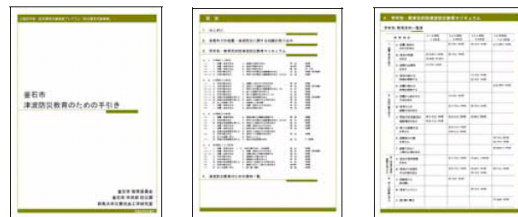
### ○岩手県釜石市の取組み

・「想定にとらわれない」、「状況下において最善をつくす」、「率先避難者になる」との「避難3原則」に基づく防災教育

- ・岩手県釜石市では、学校教育の中での防災教育などの先行事例等を参考としながら、「想定にとらわれない」、「状況下において最善をつくす」、「率先避難者になる」との「避難3原則」に基づく体系的な防災教育に取組み、子どもたちの防災意識の向上を図っています。
- ・本市では、「子どもの安全」をキーワードに津波防災教育に取り組み、「津波防災教育のための手引き」を作成して、体系的に継続的に教育が行えるようにしています。日常からの防災教育の取組みにより、東日本大震災においては素早い避難行動をとることができ、多くの子どもたちの命を助けることにつながったと考えられます。
- ・このような事例を参考にしながら、地域の状況に応じた進め方を検討していくことが必要です。

#### ●先進事例1

地方公共団体名	岩手県釜石市
住所	〒026-8686 岩手県釜石市只越町3丁目9番13号
連絡先	TEL:0193-22-2111(代表) FAX:0193-22-2686
市HP	<a href="http://www.city.kamaishi.iwate.jp/">http://www.city.kamaishi.iwate.jp/</a>
人口・面積	人口37,942人、世帯数16,966世帯、面積441.42km <sup>2</sup> (H23年11月末現在)
まちの紹介	<p>・本市は、岩手県の南東部、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、東は太平洋に、西は遠野市と住田町に、南は大船渡市に、北は大槌町にそれぞれ接しています。気候は、三陸沿岸に位置しているため、海洋の影響と地理的条件から四季を通じて温暖です。</p> <p>・本市は、わが国近代製鉄発祥の地として、また、三陸漁場の中心港として、「鉄と魚のまち」として発展してきました。東日本大震災からの一日も早い復旧と復興、新しいまちづくりに向け、「三陸の大地に光り輝き希望と笑顔があふれるまち釜石」を目指すべき地域の将来像に掲げ取り組んでまいります。(市HPを編集)</p>
安全・安心なまちづくり方策	<p>●津波防災教育</p> <p>・東日本大震災の際、子どもたちは教えられた通り、もしくはそれ以上の対応をとることで、巨大津波から無事に生き残りました。</p> <p>・本市では、「子どもの安全」をキーワードに学校における津波防災教育に取り組んできました。このような普段の取り組みにより、今回の震災においては素早い避難行動をとることができました。</p> <p>・本市は、小中学校での津波防災教育を継続していくことにより、『釜石に住むことは津波に備えるのは当たり前』という文化を形成するとともに、『津波はたまに来るけど、釜石はこれほどまでに魅力的な郷土である』という郷土愛を育んでいきたいと考えています。</p> <p>●津波防災教育のための手引き</p> <p>1) 津波防災教育の実施方法ごとに指導内容の例を取りまとめました各学年の教科から、「地震・津波・防災」に関連する単元をピックアップし、その授業の中で追加的に教えることが可能と思われる内容、及び児童・生徒の理解力に応じた津波防災教育を実施する場合のカリキュラム案を取りまとめています。</p> <p>2) 児童・生徒に教育するための資料を取りまとめました児童・生徒に教えるために教員が知っている必要がある知識を項目ごとに、授業で使う資料を項目ごとに取りまとめています。</p>



津波防災教育のための手引き  
(出典：群馬大学HP)

[http://www.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi\\_tool/index.html](http://www.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi_tool/index.html)

出典：国土交通省近畿地方整備局建政部 災害に強いまちづくり

<http://www.kkr.mlit.go.jp/bousai/index.html>

## 5 災害に強いまちづくり計画



### ○中土佐町の取組み

#### ・小学生・中学生時代における防災教育の重点化

・中土佐町内には高等学校がなく、働き手の多くが町外で活動するため、昼間に災害が発生した場合、中土佐町内の小学生および中学生が中心となり災害に対応することが想定されます。そこで中土佐町では、小学生・中学生年代における防災教育を重点的に実施しています。

・久礼中学校では、全9コマにわたり、体験やグループ討議を交えた防災教育を行い、中土佐町の防災対策の現状を把握した上で、災害が起きる前にできること（事前復興）について考える場を設けています。

校時	5校時 13:45~14:35	6校時 14:45~15:35
7/3(金)	<学習・体験> 避難所の備蓄資材について 体育館下の倉庫の備蓄資材の確認	<学習> 災害の種類と町の新型コロナウイルス対応 災害の種類と今回の騒動の問題点
7/7(火)	<グループ討議> 自分の(我が家の)備蓄はどうか・これからの町の備蓄の在り方 自宅の備蓄の状態から見えてくる災害への備えと行政に期待する役割	
7/10(金)	X	<学習> 昔の航空写真から久礼の土地特性を知る 今の子どもたちが知らない久礼を学ぶ
7/15(水)	<学習> 大きな災害に襲われた後の町はどうなるか 津波被災後の町の姿を考える	<グループ討議> 「津波の後」に備えて今からできること 子どもたちが考える事前復興
7/17(金)	<グループ討議> 「津波の後」に備えて今からできること 子どもたちが考える事前復興	<まとめ>

#### 久礼中学校防災教育カリキュラム

(出典：中土佐町提供資料)

・久礼小学校では、国際協力機構（JICA）主催の防災研修と連携し、世界的にも先進的な中土佐町での防災の取組みについて小学生が学ぶ機会を提供しています。本研修は、日本の政府開発援助（ODA）の一貫として、JICA が島嶼国から主に防災担当行政官を招き、風水起因災害及び地震・津波起因災害等のリスクを緩和するために日本で講じられている様々な防災対策（国、県、市町村、コミュニティの対策）について、講義、視察等により理解し、研修成果の自国の防災への応用について話し合い、帰国後に各国の防災対策の課題解決に取り組むことを目的として、高知大学が実施しています。中土佐町では、中土佐町防災危機管理室と連携して研修を進めることで、中土佐町での防災の取組みを意識させ、小学生年代における災害に強いひとの育成を図っています。